



潮 風

岩美西小学校
2023年10月号
学校だより
児童133名



本質を感じ、本質を共に創る

校長 山口 暁美

最近、やっと朝夕が涼しくなってきました。今年は九月になっても残暑がおさまることはなく、どの方も体調管理が大変だったことだと思います。そんな中、皆様のおかげで子どもたちが笑顔で登校してきたことに深く感謝を申し上げます。依然として新型コロナとインフルエンザの流行もあるようです。皆様引き続き、十分に体調管理にお気を付けください。

さて、先日ある子どもを指導した際、「女の先生は怒られても怖くないので、悪さをしてしまった。」と話したことがありました。この児童は深く反省しているので、温かく見守っていきたいと思っていますが、無意識のうちに「女の先生は怖くない」と思っているのはもしかしたらほかの児童もいるかと思い書くことにしました。

未来を生きる子どもたちには、「男性・女性」「怖い・怖くない」で判断するのではなく「ならぬものは、ならぬ」「これをするのはよい行い」で判断してほしいと多くの方が思っていると思います。学校ではリーダーを決める際は男女を意識しない、名簿や整列を男女別でしない、担任の学年は男女関係なく適材適所でなどと配慮をしてきました。しかしまだ不十分で、もしかしたら学校を含め、未だ私たち大人の考えが「無意識の思い込み」にとらわれていて、子どもたちの行動に反映されているのかもしれない。

「無意識の思い込み」とは、自分自身は気づいていない「ものの見方やとらえ方のゆがみや偏り」を言います。自分自身では意識しづらく、ゆがみや偏りがあるとは認識していないため、「無意識の偏見」とも呼ばれています。性別以外にも例えば、

- ☐ 学校の先生は運動がとても得意である。(職業)
- ☐ 眼鏡をかけた人は真面目だ。(容姿)
- ☐ 残業をする人はやる気がある。(行動)
- ☐ 雪国の人はスキーが上手なはずだ。(出身)

等々があります。これらは、今まで生きてきた家族、学校、地域社会などにある価値観などに影響され作られてしまった偏見と言われています。そして時によっては差別やハラスメントの原因になることがあります。子どもたちには、本質は何かを見抜く目や、相手を受け入れ、相手のことを知ろうとする気持ちをもって、客観的な事実から適切に相手を判断する姿勢を身に付けてほしいと願っています。

低学年を担当することが多かった私が初めて西小で6年の担任をすることになった時、ある児童が「先生は日本史が好きですか。」と尋ねて来ました。「大好きですよ。高校の時は一番得意だったよ。」と答えると「僕、社会の日本史が好きなんです。先生が低学年しか担任をされていないので、社会をきちんと教えてもらえるか心配していたんです。よかったあ。」とにっこりして言いました。前担任の先生は男性で、高学年のスペシャリストかつ教科の指導力もあり、その上運動が得意な方でしたので、私が担任であることは子どもも保護者も不安でいっぱいだったと思います。その後私はこの子どもたちを失望させてはいけないと、同僚の力を借りながら教材の準備をして臨み、子どもたちに真剣に向き合いました。私の指導はお世辞にも上手ではありませんでしたが、私の姿を感じて一緒に頑張ってくれたすばらしい子どもたちでありました。また、当時の保護者の皆様のたくさんの配慮にも感謝しています。子どもたちを含め周りの方々に育てていただいたからこそ、私は頑張れたのだと思います。

育てていただいた西小校区に感謝しながら、未来を生きる子どもたちのために、これからも本質を感じ、本質を創っていく学校・教室・教師を皆様と共に目指していけたらと思っています。

